

分担研究報告書

若年者を対象とした効果的な薬物乱用予防に係る広報戦略の策定に関する研究

研究分担者：河井孝仁
(東海大学)

研究要旨

行政機関が効果的な薬物乱用の予防啓発活動を企画・実施するために、地域の多様な団体及び市民と連携しつつ、どのように広義のメディアを活用することが望ましいかについて分析する。

今年度においては、自治体広報担当者および広報研究専門家との意見交換を行うとともに、若年者への支援に積極的な地方自治体、非医療の大麻利用を一部許容している海外調査、さらにWebアンケートを行い、従来の自治体広報への大麻乱用防止の組み入れの課題や、生きづらさの相違に伴う広報取り組みの相違などを明らかにすることで、行政の相談機関への誘導可能性について検討した。

A. 研究目的

本分担研究では、大麻に関する科学的知見や、特徴的な取り組みを行っている国・地域における規制・実態・広報手法などの継続的な情報収集に基づき、行政機関が地域の多様な団体及び市民と連携しつつ、若年者に向けた効果的な薬物乱用の予防啓発活動を企画・実施するために、広義のメディアをどのように活用することが望ましいかについて分析することを目的とする。さらに、当該分析に基づき、行政機関等が利用しやすいガイドブックの作成を目指すものとする。

分析のためのフレームワークとして、AIDA・AIDMA・AISAS・SIPSなどの消費者行動変容に係る記述モデルを戦略モデル化した「メディア活用戦略モデル」を用いる。

今年度は、2022年度に引き続き、メディア活用戦略モデルによる行動変容の内容として、大麻乱用への許容度の高い層である強い不安を持つ若年者が、地域の支援力を発見し、活用するための課題発見と適切な行動促進の明確化を目的とした。

B. 研究方法

1. 自治体広報の現状確認及び大麻乱用防止広報についての意見交換

自治体広報の現状を確認するために、優良な自治体広報事例が表彰され、多くの自治体広報担当者が集積し、2023年6月に開催された「全国広報広聴研究大会」に参加し、意見交換を行った。

2. 国内における大麻乱用に係る若年者支援についてのヒアリング

国内のヒアリングについては、2023年9月に札幌市男女共同参画課の石崎氏へのヒアリングを行い、

家庭における大麻乱用防止の取り組みについてヒアリングを行った。

2. 国外における大麻乱用に係る広報の取り組みについてのヒアリング

国外では、2023年2月にタイ・バンコク市で政府として大麻乱用防止を担当する社会開発人間安全保障省子供・青少年局副局長UTHEN CHANAKUL氏及び、若年者支援を行っている国立チュラロンコーン大学医学部精神科Miss Rasmon Kalayasiri 医師にヒアリングを行った。

3. 若年者の不安と相談意欲に係るアンケート

2024年3月に、株式会社NTTコムオンラインマーケティングソリューションに委託し、全国の20歳～39歳、217人を対象にWebアンケートを行った。

C. 研究結果・考察

1. 国内における大麻乱用に係る若年者支援についてのヒアリング

札幌市男女共同参画課の石崎氏からのヒアリングでは、若年者の行動変容にとっての、家庭内における母親の影響力の積極的な活用の意義及び手法、課題について知見を得られた。

2. 国外における若年者の大麻乱用に係る広報についてのヒアリング

社会開発人間安全保障省子供・青少年局副局長UTHEN CHANAKUL氏へのヒアリングからは下記の知見を得た。

タイでは一部において大麻利用を可能としたが、それにより栽培が自由化され、結果的に嗜好用の

大麻が乱用される状況にある。若年者向けの大麻乱用防止の広報手段として、学校での講演やソーシャルメディアのTikTok、関連してのアンバサダーの活用がある。アンバサダーは必ずしも著名なタレントではなく、若者に人気のあるインフルエンサーを選定している。

広報の方向性として①危険性の訴求、②サポートという2つがある。学校での健康診断や地域での不適切行動からスクリーニングを行い大麻乱用が疑われるときはサポートに入る。TikTokは身体的・精神的・社会的な危険を訴求するものが中心であり、学校でのキャンペーンには、元乱用者（中毒者）の方が個人として参加してくれることもあり、強い訴求力を持っている。

TikTokではボランティアの個人が大麻乱用防止のためのコンテンツを上げている事例がある。不適切な内容があれば警察のサイバー部局が対応している。

国立チュラロンコーン大学医学部精神科中毒研究センターのMiss Rasmon Kalayasiri 医師へのヒアリングからは下記の知見を得た。

大麻のプラス面とマイナス面について議論するセミナーを開いている。バランスが重要であり、どちらかに偏ることは課題となる。セミナーは政府・病院・非営利組織のトライアングルで実施されている。

非営利組織は政府からの補助金为中心で、企業からの支援は今のところ殆ど無い。セミナーでの議論は必ずしもアカデミックなものではなく一般向けでもあるので、十分に確認できれば大麻乱用を防ぐことはできる。セミナー後にアンケートを取っている。理解度を確認するものである。全国的な理解度を把握していないのでセミナーがどれだけの理解向上に意義を持ったかは不明だが、手応えはある。友人や母親がゲートキーパーになることは意義を持つと考える。

これらの知見から、政府の役割、医療機関の役割を明確化し、政府や医療機関だけでは不十分な部分を、地域、非営利組織、学校、元乱用者といった個人等との連携による広報の重要性が確認できた。

また、若年者向けのソーシャルメディア、特にtiktokの活用可能性や、取り組みにおいて留意すべきことなどが明らかになった。

3. 若年者の生きづらさと大麻乱用への許容度にかかるアンケート

当該アンケート結果の知見は以下の通りである。

Q1 あなたは、「生きづらさ」を感じることはありませんか (SA)

(表1)

	人数	%
よくある	70	32.3
時々ある	78	35.9
あまりない	51	23.5
まったくない	18	8.3

Q2 あなたが、「生きづらさ」を感じた時にとる行動を教えてください (MA)

(表2)

	人数	%
公的機関に相談する	8	4.0
家族・友人に相談する	60	30.2
酒やたばこ、お菓子などで気晴らしをする	47	23.6
ゲームやネット視聴などで気晴らしをする	66	33.2
生きづらさの理由をまじめに考える	35	17.6
生きづらさの理由を解決するための行動をする	27	13.6
このなかにはない	16	8.0
何もしない	56	28.1

Q3 あなたは、「薬物乱用は『ダメ、ゼッタイ』」普及運動を知っていますか (SA)

(表3)

	人数	%
内容も含めてよく知っている	76	35.0
名前だけは知っている	93	42.9
知らない	48	22.1

Q4 あなたは、大麻の嗜好的(楽しみとしての)利用は、許可されるべきだと思いますか (SA)

(表4)

	人数	%
強く思う	11	5.1
まあ思う	18	8.3
あまり思わない	52	24.0
まったく思わない	136	62.7

Q5 あなたは、誰があなたのことを最も大事に思ってくれていると思いますか (SA)

(表5)

	人数	%
母親	101	46.5
父親	8	3.7
母親及び父親以外の家族	8	3.7
パートナー(恋人を含む)	37	17.1
パートナー(恋人を含む)以外の友人	1	0.5
学校の教員	0	0.0
地域の人	2	0.9
上記以外の人	2	0.9
そういう人はいない	58	26.7

このアンケート結果からは、生きづらさを抱えている人が相当数に上がることが確認できるとともに、公的機関に直接に接続するような行動変容には高いハードルがあり、特に母親、あるいはパートナーを経由した行動変容に一定の可能性があると考えられる。

以上から、学校や地域からの広報も、行政からと同様に、いったん過程を経由することの重要性を指摘できる。つまり、行政・地域・学校という単独主体ではない、連携した広報主体による取り組みの意義と、メディア戦略活用モデルを連続して実践し、最終的な行動変容を期待する若年者に影響力を与えられる存在、特に母親や恋人を含むパートナーへの事前の意識変容、行動変容という多層的な広報の必要性が理解できる。

E. 参考文献

内田美宇「現代社会における薬物乱用とその対策について」(2015)

http://www.shigakukan.ac.jp/information/upload/report2015_04.pdf

河井孝仁『新・シティプロモーションでまちを変える』彩流社(2022)

河井孝仁『市民は行政と協働を創れるか』彩流社(2022)

河井孝仁『戦略的に成果を上げる！自治体広報のすごい仕掛け』学陽書房(2023)

北 浩樹, 伊藤 千裕, 木内 喜孝「大学と学生の大麻情勢—大麻リスクとその対策—」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第6巻, p193-204 (2020)

警察庁違法大麻撲滅キャンペーン「I'm CLEAN—なくす やめる とおざける—」

https://www.npa.go.jp/bureau/sosikihanzai/yakubutu/jyuki/illegal_cannabis/

村上勲, 齋藤百枝美, 渡辺茂和, 土屋雅勇「薬物乱用防止に関する薬学部1年生の意識変化」『薬学教育』第2巻 (2018)

薬物乱用者の手記_神奈川県 (厚生労働省から)

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/n3x/yakumu/yakutai/cnt/note.html>

薬物乱用防止のための基礎知識_麻薬・覚せい剤乱用防止センター

<http://www.dapc.or.jp/kiso/index.html>

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし